

東京オリンピック ～招致決定報道比較～

仮説

- 開催国である日本が、東京五輪についてより詳細な報道をしているのでは。
- 海外では、原発問題などを懸念する報道が見られるのではないか。

日本

- 購読者数の多い「読売新聞」と「朝日新聞」を選定。
- 東京オリンピックが決まった後の新聞記事を対象とした。

朝日新聞特別紙面

朝日新聞

本日は特別紙面でお届けします。
通常紙面は2枚目からになります。

1964



深いブルーの空がバツクだった。ジェット機によって五輪のマークがくっきりと描かれた。1964年10月10日。子供も大人も空を見上げた。それが「希望」の象徴であったのは間違いない。町には坂本九の「幸せなら手をたたこう」が流れていた。東京―大阪間には東海道新幹線が走った。日本が高揚に向かっていた瞬間だった。

あのオリンピックが帰ってくる。50年ぶりに帰ってくる。当時と時代が含んでいる空気が違う。2011年には東日本大震災があった。そこからの復興が果たされたとは、まだいえない。が、五輪は間違いない。人々の体に勇気を吹き込む。猫背気味に視線を下に落としていた人たちが上を向くのだ。そこには64年に見た「希望」が形を変えて新たに表れるに違いない。お帰り、五輪。僕たちは元気をもらうよ。

(編集委員・西村欣也)

お帰り五輪。夢の炎、熱く熱く。



まとめ

～日本～


- 両紙とも東京オリンピック開催決定の翌日9日の朝刊は、休刊であったので夕刊で取り上げられている。また、号外も発行されている。
- 一面だけでなく、特別紙面や特集が組まれるなどして、プレゼン内容や選手村・競技場構想、各界の著名人のコメント、2020年の有望選手など細かく報道されている。
- 震災にふれた報道は見られなかった。9日以降では取り上げられるようになっていった。

The New York Times


For 2020 Olympics, I.O.C. Picks Tokyo, Considered Safe Choice



Pool photo by Fabrice Coffrini

 **Tokyo to Host 2020 Summer Olympic Games: The International Olympic Committee picked the Japanese city over rivals Istanbul and Madrid.**


By **JERÉ LONGMAN** and **MARTIN FACKLER**


Published: September 7, 2013 |  149 Comments

BUENOS AIRES — Tokyo was selected Saturday to host the 2020 Summer Olympics in what was considered a safe rather than transformative choice in a time of political and economic uncertainty around the globe.

 **FACEBOOK**

 **TWITTER**

 **GOOGLE+**

 **SAVE**

For 2020 Olympics, I.O.C Picks Tokyo, Consider Safe Choice

- 9月7日(オリンピックが決まった後の記事)
- Title:

For 2020 Olympics, I.O.C. Picks Tokyo, Consider Safe Choice

- 写真: 東京が選ばれた瞬間の映像

内容

- 日本を選ぶことが“安全策”であったことを強調
- 特に経済面、政治面、安全面において
- 日本の福島原発の問題より、スペインの政治問題、トルコ周辺のシリアの問題の方が緊急性が高かったと主張
- アジアにスポーツや経済の中心が移行してきているのではないか、という意見
- 次はアメリカやヨーロッパにチャンスがある、という意見
(2024年にむけて)

分析対象

・分析対象 : Die Welt Web(7.Sep.2013)

[http://www.welt.de/sport/olympia/
article119798473/Die-Olympischen-Spiele-2020-
gehen-nach-Tokio.html](http://www.welt.de/sport/olympia/article119798473/Die-Olympischen-Spiele-2020-gehen-nach-Tokio.html)

(29.10.2013 閲覧)

Die Weltとは

- ・1946年ハンブルクでイギリス占領軍により創刊。
- ・新聞社自身は「リベラル・世界市民的」と定義。
- ・平均的な販売部数は、凡そ209,000部で、130カ国以上の国々で購読可能。

(Die Welt HPより)

記事分析

<タイトル>

Die Olympischen Spiele 2020 gehen nach Tokio.

(訳)2020年オリンピックは東京へ行く。

<視覚効果>

・「TOKYO 2020」の文字が書かれた紙をIOCの人が抱えている写真。

記事分析

- ・全部で10段落
- ・1～4段落→主に「東京に決まった」という事実
- ・5～8段落→「福島の問題(汚染水)」について
- ・9～10段落→「イスタンブール落選」について

記事分析

・Im ersten Wahlgang war....(略)....gesammelt hatten.
Die spanische Hauptstadt scheiterte damit zum dritten Mal in Folge mit seiner Bewerbung. Auch das mit Abstand kleinste Budget aller Bewerber – daraus resultierend, dass in Madrid die meisten Olympiabauten bereits stehen – verhalf den Spaniern nicht zum Triumph.(4パラより引用)

(要約)

予算が、候補地の中で一番低いにもかかわらず、スペインは3度目の立候補も失敗に終わった。

記事分析

Ansonsten versuchte die Delegation erfolgreich, **Lockerheit** zu demonstrieren und auf die zahlreichen **Stärken Tokios zu verweisen**: ein nahezu perfektes Transportsystem, kompakte Spiele im Umkreis von nur acht Kilometern um das Olympische Dorf, hervorragende Infrastruktur und innere Sicherheit. Zudem wurde umfangreich auf die wirtschaftliche Stabilität der Region hingewiesen. (8パラより引用)

(要約)

東京の代表団が、**脳天気な気分**で、東京の様々な長所を示そうとした。

まとめ ～ドイツ～

- ・全体的に、可もなく不可もなく、事実を淡々と書いている感じをうけた。
- ・汚染水問題について、厳しく書いてくると予想したが、**安倍首相の言葉を多用し**、安倍氏の発言を強調していた。
- ・イスタンブールについての批評を最後にもってきたことは興味深い。

東京オリンピック2020

～イタリアでの反応は？～

イタリアでは日本のオリンピック開催に関して、
原発事故問題で騒ぐ他の欧州諸国と比べると
好感的な意見が多い。

それは一体何故なのか？

理由としては以下の2つの理由が挙げられる。

1.2024年の開催地を東京に続いて狙っている

→2024年はパリが有力開催地であるが、パリは3回目の開催であることに加えてローマは1960年以来の2回目。加えて下馬評が高かった都市が落選すること多いため、ローマもあり得るのではないか、との声が高まっている。

2.経済破綻からの脱却

→現在イタリア政府は経済破綻の危機に陥っている。

実は2020年の立候補も予定していたが大会の財政保証を拒否したため立候補を断念したといういきさつがある。

イタリアも日本を見習って、オリンピック招致によって経済活動を活発なものにしたいと考えている。

人民日報

東京申奥成功 多拉A梦功不可没

- 光明网(2013/09/09)
～このオリンピック申請期間に於いて、東京代表団が全世界的に良く知られているアニメのドラえもんを用いたのは小さくない貢献である。過去のオリンピック大使のイメージキャラクターを、アニメーションのキャラクターが務めるのは史上初の出来事である。
- 以下、AKBの愛くるしさや滝川クリステルの美しさについて賞讃した同様の記事が多数。

东京申奥成功 哆啦A梦功不可没

2013年09月09日 10:06:03 | 责任编辑: 华夏 | 来源: 光明网

◆关键词 → 哆啦A梦 大使 申奥成功 全会



北京时间2013年9月8日凌晨，在国际奥委会第125次全会上，罗格主席宣布2020年奥运会的东道主花落日本东京。在东京代表团这次申奥成功的期间，在全球范围内家喻户晓的动画人物哆啦A梦做出了不小的贡献。据称，过去的申奥特殊大使多为奥运会的奖牌得主出任，动漫人物出任申奥特殊大使尚属首次。